



科目名		実習・演習3（レコーディングエンジニア専攻）			年度	2025
英語表記		Training and exercises 3			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル		
1	1年次の復習	スタジオ作業の基本確認	1 エンジニアの知識確認	電気・様々なオーディオフォーマット・PC関連の知識がわかる。	3	自己評価
			2 マイクロфонの確認	学内にあるマイクロфонの機能と種類がわかる。		
			3 マイクロфонの紹介	マイクロфонのメーカー、代表的なマイクがわかる。		
2	マイクセッティング	マイクロфонのセッティング方法の確認	1 マイクロфонの選定	ドラムとピアノに合わせたメーカー別、目的別に班分け、自分のベストセッティングができる。	3	自己評価
			2 ドラムの音源をつくる	様々なマイク、セッティングにより、単音を収録できる。		
			3 ピアノの音を比べる	様々なマイクセッティングにより、ピアノのを収音し、聞き比べるができる。		
3	ミキサー卓の理解	ミキサー卓の理解	1 アナログ卓復習	SSL社 4000E (SSLのブロックダイヤグラムを理解) が使える。	3	自己評価
			2 アナログ卓復習	スタジオのアナログ卓の操作方法について復習し、操作できる。		
			3 デジタルシステム卓復習	SSL社 DUALITYの操作方法を通してデジタル卓について復習し、操作できる。		
4	アーティストとのコミュニケーション	アーティスト側の理解	1 アーティストの立場を研究	スタジオ、ライブ、パートごとのモニターの目的がわかる。	3	自己評価
			2 アーティストの立場を研究	モニターの研究。アーティストに合わせたモニターづくりができる。		
			3 リズムセッティング1	バンドレコーディングのセッティングがスムーズにできる。		
5	リズムセッティングのマスター	円滑なバンドセッティング	1 リズムセッティング2	セッティングと回線チェックが素早く、正確にできる	3	自己評価
			2 バンドセッティング1	いくつかのバンド編成をもとに回線図、準備図を書ける。		
			3 バンドセッティング2	マイクロфонの選び方、セッティング方法、が適切にできる。		
6	ボーカル録音	ボーカルの録音と処理の確認	1 ボーカルダビングセッティング	指定された音源へスムーズにボーカル録音ができる。	3	自己評価
			2 ボーカルダビング・エディット	録音したボーカルを整音できる。		
			3 ピアノの音作り	ピアノの音のエフェクトを駆使して音作りできる。		
7	ギター録音	ギターの音作り	1 ギターの音作り1	楽器についての知識、マイク、ラインの違い、各種音の特徴についてわかる。	3	自己評価
			2 ギターの音作り2	ギターの音のエフェクトを駆使して音作りできる。		
			3 ギターの音作り3	エレキ、アコースティック、様々なマイク、録りかたがわかる。		
8	アーティストとのコミュニケーション	アーティストとのコミュニケーション確立	1 アーティストとのコラボレーション1	レコーディングエンジニアとしての仕事の発掘、バンドとの関わ	3	自己評価
			2 アーティストとのコラボレーション2	様々なバンドのミックスを考察する。メーターとの関係もわかる。		
			3 レコーディング	楽曲レコーディングがスムーズにできる。		
9	バンドレコーディング	アーティストとのコラボレーション	1 科バンドレコーディング	フォーリズムのレコーディングができる。	3	自己評価
			2 科バンドレコーディング	録音データのエディット・ミックスができる。		
			3 オーバーダビング	録音された音源へ様々な音を適切にオーバーダビングできる。		
10	バンドレコーディング2	アーティストとのコラボレーション	1 バンドセッティング復習	4リズムのセッティングを細かく考察する。グループごと素早くセッティングができる。	3	自己評価
			2 セッティングタイムトラベル	セッティング回の復習を元に、より早くきれいにセッティングできる。		
			3 ドラムの音作り	ドラムの音のエフェクトを駆使して音作りできる。		
11	スタジオの基本復習	スタジオシステムの確認	1 CD試聴会	教員、学生とも良い音のCDをお互いに試聴し、プレゼンできる。	3	自己評価
			2 ミキサー卓全般の確認	デジタル、アナログ両方の概念、操作方法が解る。		
			3 スタジオの構造	もし自分がスタジオを建てたなら？スタジオの構造、各機器の金額、立地など条件がわかる。		
12	コンプレッサーの理解	コンプレッサーの使い方の理解	1 エフェクター 1	多用なエフェクターを使った音作りができる。	3	自己評価
			2 コンプレッサー・リミッター研究1	コンプレッサーなどダイナミクス系のエフェクターが使えるようになる。		
			3 コンプレッサー・リミッター研究2	音源を元に様々な音を作ることができる。		
13	リバーブの理解	リバーブの活用方法の理解	1 リバーブ研究1	リバーブや空間系のエフェクターの使い方がわかる。	3	自己評価
			2 リバーブ研究2	サンプリング音源を元に様々なリバーブの音を聞き分けることができる。		
			3 エフェクター 2	記載以外のよく使われるエフェクターについても使えるようになる。		
14	エフェクターの種類	様々なエフェクターの種類の理解	1 エフェクター 3	多用なエフェクターを使った音作りができる。	3	自己評価
			2 エフェクター 4	各エフェクターの特徴を知る。		
			3 MIXDOWN	各楽器音の関係を考慮しながらミックスダウンできる。		
15	発表と視聴	作品の発表	1 文化祭に向けて	レコーディングエンジニア専攻らしいイベント、発表を検討する。	3	自己評価
			2 教育成果発表会（文化祭に向けて2）	レコーディングエンジニア専攻らしいイベント、発表の準備。		
			3 まとめと試聴	前期のまとめ、各自も持ち寄った音源、音の取り方についてプレゼン、試聴。		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかつた、D：まったくできなかつた

備考 等